

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

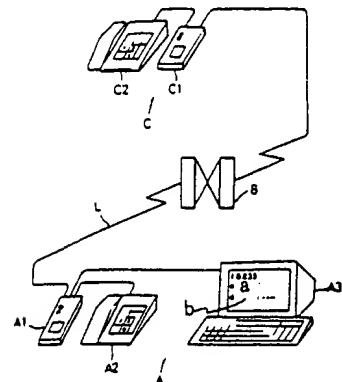
**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

(54) CALLING SYSTEM

(11) 2-207645 (A) (43) 17.8.1990 (19) JP
 (21) Appl. No. 64-28419 (22) 7.2.1989
 (71) CASIO COMPUT CO LTD (72) KAZUHIRO OISHI
 (51) Int. Cl^s. H04M1/276

PURPOSE: To call a prescribed communication equipment with one touch operation by setting the telephone number of the prescribed calling device to be preset to a transmitting means and the identification number of the calling device itself by using the arbitrary calling device.

CONSTITUTION: A calling device A set in a hired car company side is equipped with a transmitter A1, telephone set A2 and personal computer A3. The transmitter A1 receives the telephone number from a calling device C in a customer side, connects the number to the telephone set A2 and outputs the customer identification No to the personal computer A3. In the personal computer A3, data such as a customer name, address and route, etc., are stored by customers in correspondence to the ID No. When the ID No is inputted from the customer side, the data corresponding to the ID No are displayed. In a transmitter C1 in the customer side, the telephone number of the telephone set A2 in the hired car company side and the ID No of the transmitter C1 itself are preset and the telephone number of this telephone set A2 and the ID No of the transmitter itself are transmitted with one operation. Thus, the exclusive transmitter can be realized to call the prescribed calling device with one operation.



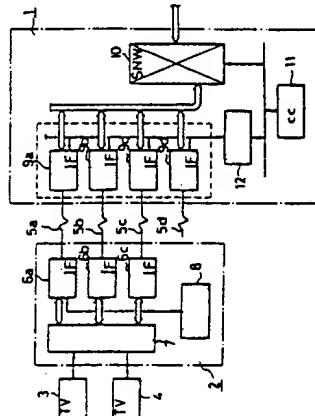
a: Taro Tsuchida (Chinese character), b: Tokyo-to (Chinese character)

(54) WIDE BAND TERMINAL HOUSING SYSTEM

(11) 2-207646 (A) (43) 17.8.1990 (19) JP
 (21) Appl. No. 64-27681 (22) 8.2.1989
 (71) TOSHIBA CORP(1) (72) MASAJI KONNO(1)
 (51) Int. Cl^s. H04M3/00

PURPOSE: To efficiently realize wide band service by respectively designating an information channel in a communication line and an information channel in the other communication line to a wide band terminal, which needs the plural information channels, by using one control channel in the plural communication lines and executing call setting.

CONSTITUTION: A wide band terminal 2 is connected through three communication lines out of communication lines 5a-5d, ... with basic speed access type [2B+D] channel structure, which is regulated by CCITT recommendation, to a digital exchange 1. A call control circuit 8 connected to a line interface 6a communicates the control information of the call setting for executing the communication of a picture signal respectively using the information channel (B) of the three communication lines 5a-5c with the digital exchange 1 through the control channel (D) of the communication line 5a. Thus, the wide band terminal can be housed by using plural basic interfaces and housing efficiency is improved. Then, the digital exchange system of high economy can be realized.



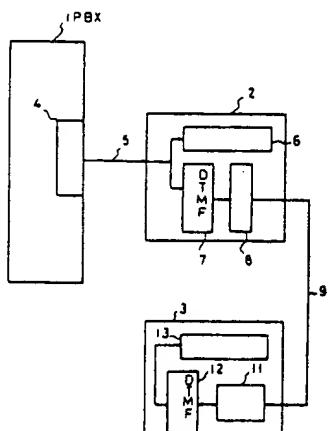
3: TV camera, 4: TV monitor, 7: picture cordic, 6a-6c, 9a-9d: line IF, 12: signal processing circuit

(54) FAULT DISPLAY SYSTEM FOR ELECTRONIC EQUIPMENT

(11) 2-207647 (A) (43) 17.8.1990 (19) JP
 (21) Appl. No. 64-29119 (22) 8.2.1989
 (71) TOSHIBA CORP (72) HIROAKI YAMASHITA
 (51) Int. Cl^s. H04M3/10

PURPOSE: To set a display device distant from an electronic equipment, informing a fault of a maintenance staff, etc., without fail and to execute a speedy countermeasure by sending a correspondent DTMF signal based on a detected result to the fault of the electronic equipment and executing correspondent display based on the received DTMF signal.

CONSTITUTION: A fault decision part 4 executes the detection of service interruption, etc., and sends correspondent information and power supply to a display device 2. The display device 2 is set comparatively near a PBX 1 and a DTMF signal sending part 7 outputs the DTMF signal of a prescribed mixed frequency in correspondence to the fault information. A display device 3 is set in a place enough distant from the PBX 1 and a DTMF signal reception part 12 is equipped with discrimination function. Then, it is detected which two frequencies are coupled. After that, the correspondent output is given to a display part 13. Thus, the electronic equipment and display device can be arranged with a distance in between and thus, the fault can be informed of the maintenance staff without fail. Then, the speedy countermeasure can be executed.



6: display part, 8: transmission part, 11: reception part

資料3号

⑩日本国特許庁(JP)

⑪特許出願公開

⑫公開特許公報(A) 平2-207645

⑬Int.Cl.¹

H 04 M 1/276

識別記号

府内整理番号

7117-5K

⑭公開 平成2年(1990)8月17日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全2頁)

⑮発明の名称 通話システム

(A)10000640001

⑯特許 平1-28419

⑰出願 平1(1989)2月7日

⑱発明者 大石 和弘 東京都西多摩郡羽村町栄町3丁目2番1号 カシオ計算機

株式会社羽村技術センター内

⑲出願人 カシオ計算機株式会社

東京都新宿区西新宿2丁目6番1号

⑳代理人 弁理士 町田 俊正

明細書

1. 発明の名称

通話システム

この発明は、所定の通話装置に対して自己の識別番号をワンタッチで伝送する伝送手段を有する通話システムに関する。

2. 特許請求の範囲

所定の通話装置の電話番号と自己の識別番号を予め記憶する記憶媒体を有し、ワンタッチ操作により、公用回線を介して、上記記憶媒体内の電話番号を伝送して上記所定の通話装置をコールした後に当該通話装置に上記自己の識別番号を伝送する伝送手段を複数有する通話システムであって、上記各伝送手段は、所定のモードの下で、上記公用回線を介して伝送された上記所定通話装置の電話番号と自己の識別番号を上記記憶媒体に書込む書込手段を備えたことを特徴とする通話システム。

3. 発明の詳細な説明

【主としての利用分野】

【発明の概要】

この発明は、上記のような通話システムを構成する際、伝送手段にアリセットすべき上記所定の通話装置の電話番号と上記自己の識別番号を、任意の通話装置を用いてセットすることにより、簡単にシステムを構成できるようにしたものである。

【従来の技術】

従来、例えは、飲食店、個人等がハイヤーを依頼するときは、その都度、ハイヤー会社の電話番号を電話して電話をかけ、自己(顧客)の住所、道順等を教えていた。

しかし、一々、ハイヤー会社の電話番号を確認したり、住所、道順等を教えるのは、顧客にとって面倒であった。

そこで、顧客は、ダイヤルメモリ機能を有する

特開平2-207645(2)

電話機に、所定のアッシュボタンと対応させてハイヤー会社の電話番号をプリセットしておき、上記所定のアッシュボタンのワンタッチ操作でコールするようにしていた。

【発明が解決しようとする課題】

しかし、上記の場合、ハイヤー会社側から見ると、ハイヤー会社の電話番号のプリセットが顧客側で自由に行われ、自社が選択されるとは限らない。

そこで、ハイヤー会社では、自社の電話番号をワンタッチ操作でコールできる専用の伝送装置を顧客側に設置することにより、自社を専ら利用するよう仕向け。かつ、顧客がダイヤルメモリ機能を有する電話機を購入しなくともよく、また、ダイヤルメモリ機能を有する電話機を既に購入済みであれば、顧客による電話番号のプリセットの手間を省き、顧客満足度、及び顧客へのサービス向上を図ることが考えられる。

この場合、ハイヤー会社の電話番号と、顧客を

識別して選択等を確認するために利用する顧客の識別番号を記憶させたROMを、上記伝送装置へ組込むことが考えられる。

しかし、ROMを活用した場合には、各ROMに記入すべき識別番号は顧客ごとに異なるため、データ内容（識別番号）の異なるROMを顧客数分用意して、各々別々の伝送装置に組込む必要があり、システムの構築が面倒であるとともに、コスト高となってしまう。

これは、顧客側に設置した伝送装置に、ハイヤー会社からのデータ伝送により自社の電話番号と顧客の識別番号をプリセットできないことに起因するものと考えられる。

この発明の課題は、所定の電話装置をワンタッチ操作でコールできる専用の伝送装置を実現すると共に、この伝送装置に、コールされる側からのデータ伝送により自己の電話番号と顧客の識別番号をプリセットできるようにすることである。

【課題を解決するための手段】

この発明の手段は次の通りである。

この通信システムは、記憶媒体a1、及び書込み手段a2を内蔵した複数の伝送手段aと、公衆回線bと、所定の電話装置cを備えている。

各伝送手段a内の記憶媒体a1（第1図の記憶ブロック図を参照、以下同じ）は、所定の電話装置cの電話番号と自己の識別番号を予め記憶する。

伝送手段aは、ワンタッチ操作により、公衆回線bを介して、記憶媒体a1内の電話番号を伝送して所定の電話装置cをコールした後に当該電話装置cに上記自己の識別番号を伝送する。

各伝送手段a内の書込み手段a2は、所定のモードの下で、公衆回線bを介して伝送された所定の電話装置cの電話番号と自己の識別番号を記憶媒体a1に書込む。

【作用】

この発明の手段の作用は次の通りである。

今、例えば、ハイヤー会社が、飲食店、個人等の複数の顧客側に、その顧客側の電話装置と接続

する形で伝送手段aを設置し、この伝送手段aに自社の電話番号と、顧客識別番号をプリセットしたい場合、任意の電話装置（所定の電話装置でも良い）を用いて、顧客側に設置した伝送手段aに接続された電話装置をコールして顧客を接続させ、所定モードに切替とさせて、自社の電話装置cの電話番号と顧客の識別番号を公衆回線bを介して伝送する。

そうすると、顧客側に設置された伝送手段aの書込み手段a2は、公衆回線bを介してハイヤー会社側から伝送されたハイヤー会社の電話装置cの電話番号と自己の識別番号を記憶媒体a1に書込む。

このような書込みが行われた後に、顧客側がハイヤー会社側にハイヤーを依頼するときは、例えば、伝送装置の所定キーをワンタッチ操作するだけで、書込みされたハイヤー会社の電話装置cの電話番号と自己の識別番号が伝送される。そして、伝送された電話番号によりハイヤー会社の電話装置cがコールされる。

特開平2-207645(3)

転って、所定の通話装置をワンタッチ操作でコールできる専用の伝送装置を実現すると共に、この伝送装置に、コールされる側からのデータ伝送により自己の電話番号と顧客の識別番号をプリセットできる。

【実施例】

以下、一実施例を第2回ないし第6回を参照しながら説明する。

第2回は、電話システムのシステム構成図であり、ハイヤー会社側に設置された通話装置Aと、公衆回線交換機Bと、顧客別に設置された通話装置Cとが公衆回線により接続されている。なお、第2回では、顧客別の通話装置Cは1顧客分のみを図示しているが、実際には、顧客別に複数台設置されている。

ハイヤー会社側に設置された通話装置Aは、伝送装置A1、電話機A2、パソコンA3を有している。

伝送装置A1は、顧客側の通話装置Cからの電

話番号を受信して電話機A2に接続すると共に、顧客側の通話装置Cからの顧客識別番号（以下、ID番と呼ぶ）をパソコンA3に出力する。

電話機A2は、伝送装置A1からの電話番号に基づいてコール音を発音し、そのコール音により受話器A2aが取り上げられると、顧客側の通話装置Cとの間での通話が可能となる。

パソコンA3には、ID番と対応して顧客名、住所、運営等のデータが顧客別に記憶されており、伝送装置A1を介して顧客側からのID番が入力されると、表示画面に示したように、そのID番に対応した顧客名、住所、運営等を表示する。従って、この表示画面を見ることにより、電話機A2では、顧客名、住所、運営等を尋ねる必要はなく、何台のハイヤーを差し向ければ良いか等のみを尋ねれば良い。

顧客側の通話装置Cは、伝送装置C1、電話機C2を有している。

顧客側の伝送装置C1には、ハイヤー会社側の電話機A2の電話番号と、自己のID番がプリセ

ットされ、この電話機A2の電話番号と、自己のID番をワンタッチ操作により伝送する。

ハイヤー会社側の伝送装置A1と顧客側の伝送装置C1とは、同様の構成であり、第3回に示すように、制御部1、CPU2、EEPROM3、PB受信部4、PB発信部5、DP発信部6、発信中LED7、話し中LED8、発信キーK1、データセットキーK2、バッファB4、PB/DP設定スイッチSWを有している。

制御部1は、公衆回線交換機Bを起動して電話番号を出し、自己と相手との間で公衆回線を接続する、データの送受信を行う等の制御を行う。

顧客側の伝送装置C1のCPU2は、データセットキーK2によりデータセットモードが設定されているときに、ハイヤー会社側の電話機A2の電話番号と、自己のID番を受信すると、それらをバッファB4に一旦格納し、所定の区切コードを検出することにより、EEPROM3に格納する。また、顧客側のCPU2は、発信キーK1が

操作されると、顧客側のEEPROM3に格納された上記電話番号と自己のID番を、制御部1を介して発信する。さらに、顧客側のCPU2は、電話番号を発信しているときは発信中LED6を点灯し、相手が話し中であるときは話し中LED7を点灯する。

PB受信部4、PB発信部5は、高低2周波のアッシュボタン信号（PB信号）に対応するもので、ハイヤー会社からのPB信号によるアリセッテデータ（電話番号とID番）は、PB受信部4により受信され、コードデータに変換されてCPU2に出力される。また、PB発信部5は、CPU2からのコード形式の電話番号等を、高低2周波のPB信号に変換して発信する。

DP発信部6は、CPU2からのコード形式の電話番号等を、ダイヤルパルス信号（DP信号）に変換して発信する。

PB/DP設定スイッチSWは、加入時に選択された外付交換機B1のタイプが、アッシュボタン用であればPB側に固定的にセットし、ダイア

特開平2-207645(4)

ルバ尔斯用であればDP側に固定的にセットしておく。そして、PB側に固定的にセットした場合は、PB発信部5を介してデータ発信が行われ、DP側にセットした場合は、DP発信部6を介してデータ発信が行われる。

次に、第4回ないし第6回を参照しながら実施例の動作を説明する。

ハイヤー会社側から自社の電話機A2の電話番号と、顧客のIDをアリセットするときは、第4回に示したように、公衆回線に音送された顧客側の伝送装置C1に音声回波装置を用いて直接アリセットするため、アッシュボタン式の電話機A2aを用いる。なお、アッシュボタン式であれば、任意の電話機A2aで良い。

まず、アッシュボタン式の任意の電話機A2aにより、顧客側の電話機C2をコールして回線を接続させ、これから上記アリセットを行なうを伝えて、データセットキーK2をオンさせてデータセットモードを設定させる。そして、アッシュボタンにより、自社の電話機A2の電話番号、顧客

Buへの格納処理を実現する。

一方、#コードを受信したときは、バッファBu内の#コードより前のデータ、すなわち、ハイヤー会社の電話番号をEEPROM3に書き込み、バッファBu内のデータをクリアする(ステップS6)。

そして、更に、伝送されたアリセット用データを直次バッファBuに格納し(ステップS7)、#コードをバッファBuに格納(受信)したか否かを判断する(ステップS8)。その結果、#コードを受信していないときは、ステップS7に亘って受信データのバッファBuへの格納処理を実現する。

一方、#コードを受信したときは、バッファBu内の#コードより前のデータ、すなわち、自己のIDをEEPROM3に書き込み、バッファBu内のデータをクリアする(ステップS9)。そして、次に伝送されたチェックディジット、及び#コードをバッファBuに格納し、#コードを格納することによりデータ受信終了を認知して、

のIDを、チェックディジットをアッシュボタンにより直次入力する、この際、#ボタンにより上記各種データ区切って入力する。

次に、顧客側のアリセット処理を第5回を参照しながら説明する。

顧客側の伝送装置C1のCPU2は、発信キーK1のオン/オフを判断し(ステップS1)、発信キーK1がオンであれば、所定の発信処理を実行して(ステップS2)、ステップS1に戻る。

一方、発信キーK1がオフであれば、データセットキーK2の操作のオン/オフを判断し(ステップS3)、オフであればステップS1に戻る。

一方、データセットキーK2がオンでありデータセットモードが設定されていれば、ハイヤー会社側から伝送されたアリセット用データを直次バッファBuに格納し(ステップS4)、#ボタン対応の#コード(区切コード)をバッファBuに格納(受信)したか否かを判断する(ステップS5)。その結果、#コードを受信していないときは、ステップS4に戻って受信データのバッファ

チェックディジットに基づいて、EEPROM3に書込んだ電話番号、IDの伝送エラーをチェックする(ステップS10)。その結果、正常であれば、そのままステップS1に戻り、伝送エラーが生じておれば、路し中LED7を点灯してその旨を報知して(ステップS12)、ステップS1に戻る。なお、路し中LED7が点灯され、伝送エラーの発生が報知されたときは、電話機C2により、再送信を要求すれば良い。

このように、顧客側に設置された伝送装置C1には、ハイヤー会社側の任意の電話機から送信された電話番号、IDがアリセットされる。次に、顧客側の伝送装置C1により、ハイヤー会社の電話機A2をコールする処理を第6回を参照しながら説明する。

伝送装置C1に接続された電話機C2の送受話器C2aをフックオフして(ステップS21)、アンサートーンが無ければ送受話器C2aをフックオンして(ステップS22、S23)、ステップS21に戻り、再度、フックオフする。アンサ

特開平2-207645(5)

一トーンが有れば、伝送装置C1の発信キーK1を操作する(ステップS24)。

そうすると、伝送装置C1のCPU2は、発信中LED7を点灯し、話し中LED8を消灯する(ステップS25)。次に、EEPROM3にアリセットされたハイヤー会社の電話番号を取出して、PB発信部5、或いはDP発信部6にてデータ交換させて、調制部1を介して送信をせることにより自動ダイヤリングさせる(ステップS26)。そして、相手(ハイヤー会社)が話し中か否かを判断し(ステップS27)、話し中でなければ、EEPROM3にアリセットされたID丸を流出して、PB発信部5、或いはDP発信部6にてデータ交換させて、調制部1を介して送信をせらる(ステップS28)。そして、発信中LED7、及び話し中LED8を消灯する(ステップS29)。そして、ハイヤーの台数等を送受話器C2aを介して告げて(ステップS30)、送受話器C2aをファックオンして(ステップS31)、終了する。

解除し(ステップS37)、ステップS31に進む。

このように、ハイヤー会社側から、ハイヤー会社の電話番号と、自己のID丸がアリセットされた後は、発信キーK1をワンタッチ操作するだけで、ハイヤー会社の電話番号と、自己のID丸を送信することができる。

なお、この発明は、上述の実施例に限定されることはなく、例えば、伝送装置を電話機と直結接続せず、単独で設置することも可能である。

【発明の効果】

この発明によれば、所定の電話装置をワンタッチ操作でコールできる専用の伝送装置を実現でき、かつ、この伝送装置に、コールされる側からのデータ伝送により自己の電話番号と顧客の識別番号をアリセットできる。従って、顧客(伝送装置が設置される側)にとっては、ワンタッチでコールするために、ダイヤルメモリ機能を有する電話機を購入したり、電話番号のアリセットを行う必要

ステップS27にて、相手が話し中であると判断されたときは、ステップS32に進んで、自動ダイヤリングを3回行なったか否かを判断する。その結果、3回行なっていないときは、発信中LED7を消灯し、話し中LED8を点灯する(ステップS33)。そして、ファックオフ中か否かを判断し(ステップS34)、ファックオフ中、すなはち、送受話器C2aが取上げられているときは、前回の自動ダイヤリングから20秒経過したか否かを判断する(ステップS35)。その結果、20秒経過したときは、ステップS25に戻ることにより、再度、自動ダイヤリングする。

20秒経過していないときは、ステップS34に戻って、ファックオフ中か否かを判断する。

このステップS34にて、ファックオンであり、送受話器C2aがファックされたと判断されたときは、発信中LED7、及び話し中LED8を消灯して(ステップS36)、終了する。

ステップS32にて、自動ダイヤリングを、既に3回行なったと判断されたときは、回数を

がなくなり、経費削減を図り、手間を省くことができる。一方、ハイヤー会社(上記所定の電話装置の所有者:コールされる側)にとっては、自社の電話機をワンタッチ操作でコールできる専用の伝送装置を顧客側に設置することにより、自社を専ら利用するよう仕向け、顧客獲得を図ることができ、かつ、自社側からのデータ伝送によって自社の電話番号と顧客の識別番号をアリセットできるので、データ内容(ID丸)の異なるROMを複数作成する必要がなくなり、設置の際の手間が省ける。しかも、ハイヤー会社では上記識別番号により顧客を特定でき、例えば、予め用意した識別番号の変更などに基づいて選択などを実現できるので、顧客に選択などを尋ねなくても済み、時間の節約および顧客に対するサービスの向上が図れる。

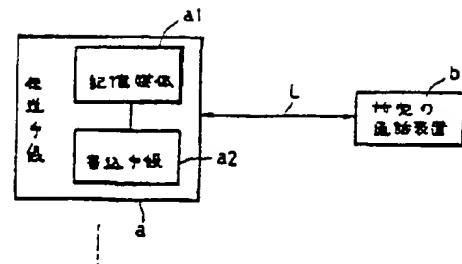
4. 図面の簡単な説明

第1図はこの発明の概要ブロック図、第2図は実施例のシステム構成図、第3図は伝送装置のブ

特開平2-207645(6)

ロック構成図、第4図はデータアリセット時のシステム構成図、第5図はデータアリセット時の伝送装置の動作を示すフローチャート、第6図はデータ通信時の伝送装置の動作を示すフローチャートである。

2…CPU、3…EEPROM、A…電話機
A2a…電話機、C1…伝送装置、K1…発信キー
…、K2…データセットキー。



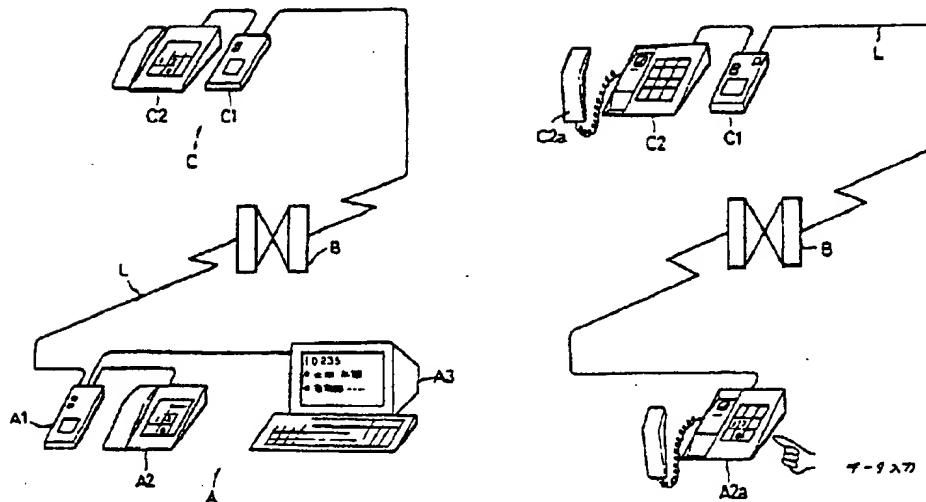
特許出願人

カシオ計算機株式会社

第1図

代理人

河田義



第2図

第4図

特開平2-207645(7)

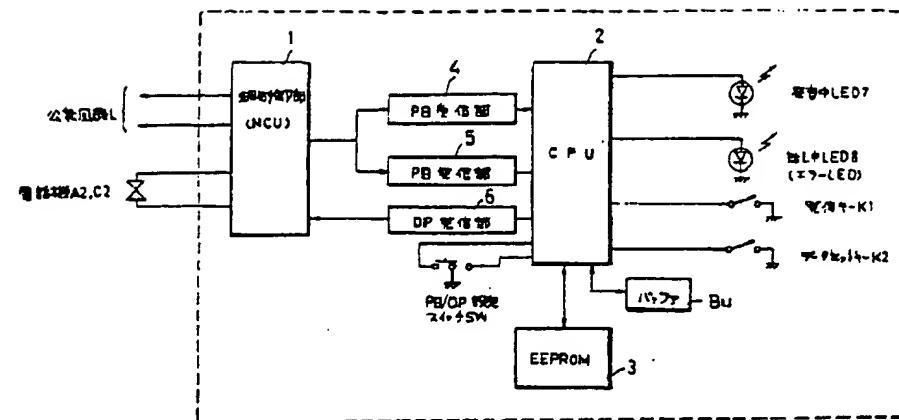


図3 図

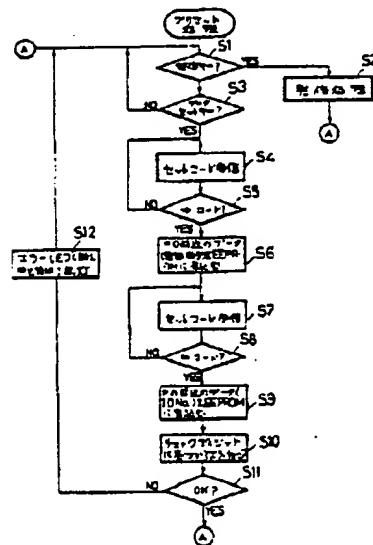


図5 図

特開平2-207645 (8)

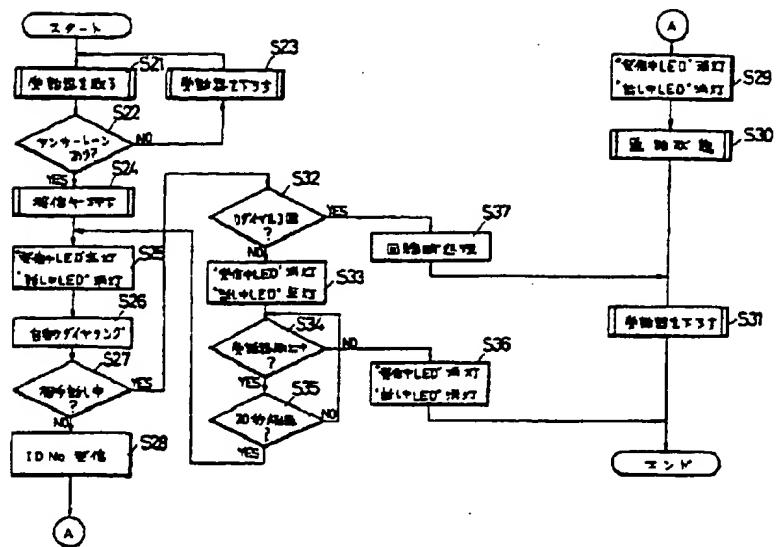


図 6 図

特開平2-207645

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】平成9年(1997)1月17日

【公開番号】特開平2-207645

【公開日】平成2年(1990)8月17日

【年通号数】公開特許公報2-2077

【出願番号】特願平1-28419

【国際特許分類第6版】

H04M 1/276

【F1】

H04M 1/276 7190-5G

手続補正書

平成10年2月7日

特許庁長官(署印)右上欄

1. 事件の番号
平成10年特許出願第38419号

2. 申請の名前

藤田昌三

3. 審査をする旨

審査との連絡 総務部長室

住所 東京都千代田区麹町二丁目9番1号

名義 (144) カシオ計算機株式会社

代表者 藤田昌三

4. 代理 A

住所 東京都千代田区麹町二丁目9番1号

TEL: 03(3261) 6228

氏名 仲村士(7498)右欄

5. 審査の対象

発明の名称、発明の詳細説明。

6. 補正の内容

(1) 発明の名称を「温度調節装置」に修正する。

(2) 布図等の「発明請求の範囲」の記載を発明の範囲に修正する。

(3) 明細書の第2主文及び第3次主文を下記の如きを削除する。

(4) 明細書の第4主文及び第5次主文を下記の如きを追加する。

既

この発明の課題は、電子機器の温度管理をワンタッチ操作でコントロールするため、また、電子機器の温度管理の電気回路と温度の監視回路とを自動的にアリセットできるようにすることである。

【明細書を著次するための用語】

この発明の不特定の用語である。

発明手続は、上記明細書の著次回数から著次回数を分して段階的に著次回数とする。

記載手続は、上記明細手続で著次された上記明細手続を上記明細手続の著次回数の著次回数と対応させて記載する。

記載手続は、上記明細手続に著次された上記明細手続を記載して、これ読み消した発明者により上記明細手続を介して上記明細手続の著次回数をコントロールして著次し、この後、上記著次回数の著次回数へ著次する。

特開平2-207645

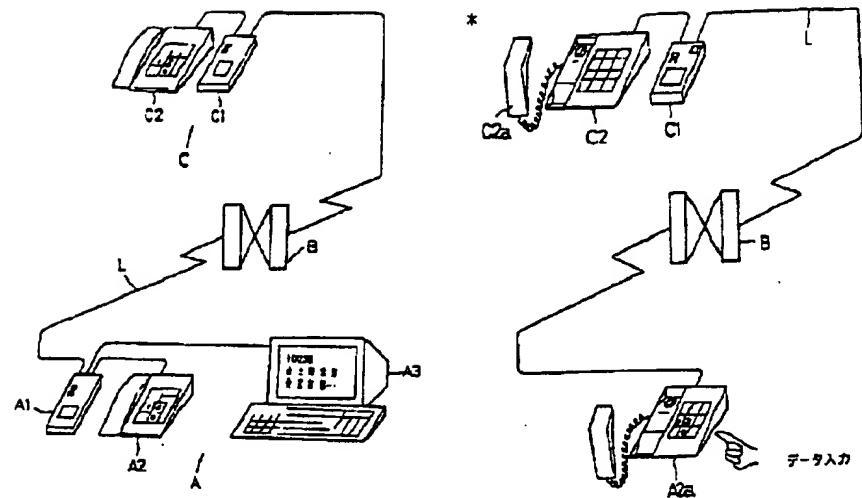


図 2 100

＊

図 3 150

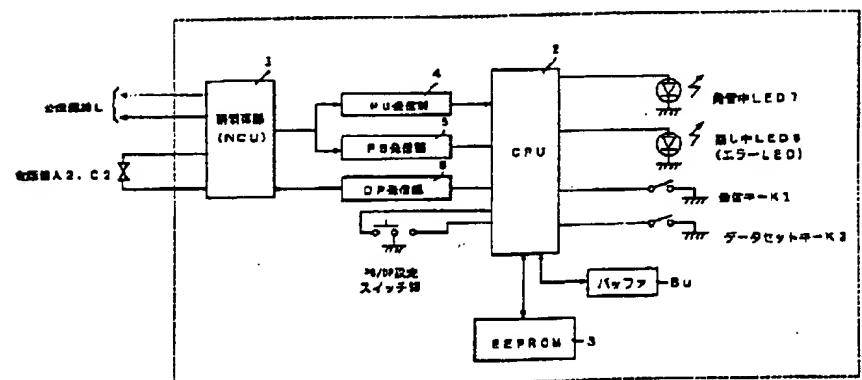
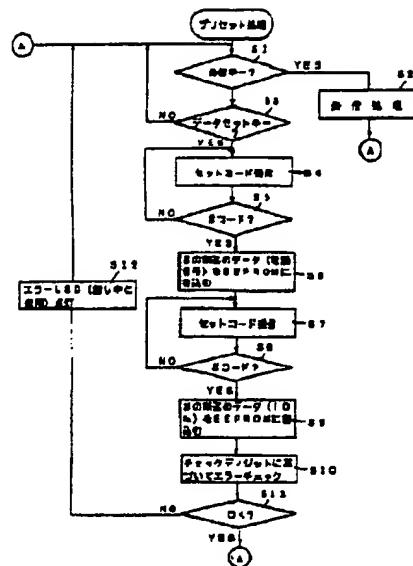
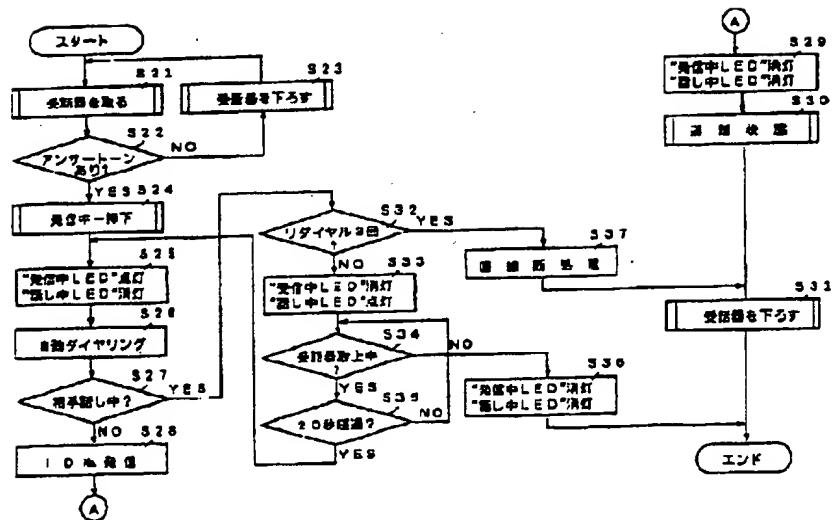


図 2 100

-3-



四



5